

第9回名古屋市生徒会サミット 2022

実施報告書



主催：特定非営利活動法人 教育支援協会東海

共催：名古屋市教育委員会

後援：名古屋市立小中学校校長会

名古屋市

公益社団法人名古屋青年会議所

協賛：ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

日時：2022年8月20日（土）13:00 開始 16:30 終了

場所：オンライン

中区千代田2丁目10-2-3 オーシャンスクエア3階（本部）

■趣旨

名古屋市の次世代リーダー達が一堂に集い、他者や地域のことを真剣に考え、未来の名古屋に貢献できる真のグローバルリーダーを育成する。

■内容

他校の生徒とグループを組み、身近な課題についてオンラインでディスカッションした。
サミット終了時にはアクションプランを作成し、その後実践に繋げるための全体発表をした。

■参加者

有松中学校生徒会 4名

個人参加 11名

実行委員ファシリテーター 高校生 4名

本部 実行委員 大学生 1名

ゲスト 京都芸術大学客員教授 寺脇研先生

■これまでの経緯

第1回	2013年7月17日(火)	名古屋市教育センター6階研修室	26校 72名
・テーマ「生徒会として行える地域貢献」			
第2回	2014年1月18日(土)	名古屋市立笹島中学校ランチルーム	17校 70名
・テーマ「生徒会として行える地域貢献 3つのテーマで(防災・環境・いじめ撲滅)」			
第3回	2015年9月19日(土)	イーブルなごや2階視聴覚室	16校 70名
・テーマ「地元を盛りあげるアクションプラン」			
第4回	2016年10月29日(土)	御器所ステーションビル5階大会議室	13校 62名
・テーマ「4つのテーマで熟議をしよう(防災・環境・いじめ撲滅・SNSリテラシー)」			
第5回	2017年10月22日(日)	御器所ステーションビル5階大会議室	11校 59名
・テーマ「4つのテーマで熟議をしよう(防災・環境・いじめ撲滅・SNSリテラシー)」			
第6回	2018年10月20日(土)	御器所ステーションビル5階大会議室	8校 35名
・テーマ「チュー祭を盛りあげよう！(4つのテーマの積み上げをどう伝えるか)」			
第7回	2019年8月2日(金)	御器所ステーションビル5階大会議室	19校 65名
・テーマ「チュー祭を盛りあげよう！(4つのテーマ以外でチュー祭でやってみたいことを出し合おう！ダイナミックな発想で)」			
第8回	2021年10月16日(土)17日(日)	オアシス21銀河の広場	
第1回	中学生の祭典「チュー祭」開催	～SDGsをわたしたちの手で～	来場者 1027名(2日間)
(2020年に開催予定は新型コロナウイルス感染拡大のため2021年に延期した。)			
第9回	2022年8月20日(土)	オンライン熟議	6校 15名
・テーマ:身近な課題を解決しよう！			

2024年 第2回 中学生の祭典「チュー祭」開催予定

■日程

2022年8月20日（土）13：00～16：30

■13：00 オープニング

全体ファシリテーターあいさつ（名古屋市生徒会サミット実行委員 高校1年生）

『みなさんこんにちは。今年もいよいよ名古屋市生徒会サミットが始まりました。
名古屋市生徒会サミットは2013年から今年、2022年まで10年ものあいだ継続して開催されています。

2020年は新型コロナ感染拡大の影響から1年の延期を余儀なくされましたが、昨年度はその集大成として、オアシス21銀河の広場で、中学生の祭典「チュー祭」を行いました。私は「チュー祭」が行われる直前に実行委員になったため、サミットは今年が初めてです。そのため、「チュー祭」にも企画から関わることができていませんでした。根本から関わり、自分たちで創り上げた実感が湧かず、「自分にはもっとできることがあるはずだ。もっと知りたい！やってみたい！」という気持ちがありました。その気持ちから高校生になった今でもサミットに参加させていただいています。

今年は新型コロナ感染拡大への配慮から、初のオンライン熟議という形で行うことになりました。実際に会って話すよりもお互いの熱量を伝えにくいかもしれませんが、一人ひとりが自分の想いを最大限に伝えることでオンラインの壁を超えることができると思います。

今日一日悔いのないように充実した時間を過ごしましょう！

では、ここで今日のサミットの目的をお話します。

1つ目は、身近な課題を出し合い、解決に向けて自分たちでできるアクションプランを決めて実行していくため。

2つ目は、ここで話し合ったことを2024年の第2回「チュー祭」に反映させるため。第2回の「チュー祭」につながっていることを意識して、何を発信したいのかアクションプランを考えます。

さて、今日の熟議を開始する前に、サミットの熟議でどうしても守って欲しいルールが一つあります。

それは、「誰の意見も否定せず、どんな意見も肯定して進めることです。そして最後には誰もが納得するアクションプランを作成しましょう。」

これさえ守れば何でも発言OKです。学年などは関係ありません。自由闊達な議論を期待しています！』



■自己紹介

全体で自己紹介

学校名・学年・呼んでほしい名前・応募の理由などを中心に全員が自己紹介しました。

■13:30 オンライン熟議開始（グループに分かれて話し合いスタート）

テーマ（1）身近な課題を出し合おう！

～学校や自分が暮らす地域の中で感じている課題を出し合います～

1 G

- ・同じ名古屋市内でも校則に違いがある。（特に髪型）
- ・謎の校則がある。
- ・自転車の乗り方が良くない。
若者（10代～20代）がヘルメットをつけていない。（学校からはヘルメット着用を推奨されている）
反対に真面目にヘルメットをつけている生徒が少しからかわれることがある。
名古屋市の条例ではヘルメット着用が努力義務になっているはず。
- ・同級生の間で悪口がある
- ・ゴミ問題（駅、公園が特に多い）
- ・ジェンダー平等への感心が低い→委員会などが動いてジェンダー平等について生徒に伝える学校もある。

2 G

- ・コロナの影響で体調不良でも学校を休まなければならない。休んだ分の授業のフォローがない。
- ・地域の（特に高齢者）との関わりが少ない。若者の（中高生）地域への関心が低い。
- ・ジェンダー平等について、深く学べる機会が少ない。
- ・タバコの煙、副流煙のリスク、二酸化炭素が地球温暖化につながる。
- ・コロナによって理科の実験がなくなった。フォローがない。→理科が難しい。

3 G

- ・公園のゴミが多い。カラスの被害が相次ぐ。
- ・名古屋独自のスクールランチによる食品ロス問題
最近草食系が増加。大人は思春期はたくさん食べるものだと思っている。
ギャップが中学生にとって辛い。
ランチルームで食べる日は周りの目を気にして全部食べようと無理しがち。
食器を片付けるところに先生が立っている。
- ・SNSの誹謗中傷→コロナになって〇〇くんがコロナになったらしいという噂が広がって行事が延期になったりするとバッシングが起こる。インスタで匿名でできる「質問箱」が流行っていて匿名性を利用した悪口などがある。
- ・校則では、学校によって校則が全然ちがう。先生からの指摘→女子の髪結び目は耳下。指定されたバッグのみ。つけるキーホルダーは拳一つ分以下という学校もあれば、破っても指摘されない学校もある。校則をあまり気にしたことがないという学校もある。

4G

- ・道が狭く人通りも多いので車の迷惑になっている。
- ・歩道が少ない。信号無視、突っ切る人もいて特に生徒と高齢者が危険。
- ・公園で集まって騒音があり、近隣住民が迷惑している。
- ・小学校の時にあった交通安全指導が中学生になると無くなるのはなぜか。
- ・地域との繋がりが希薄。SNSの有効活用で学校を発信したい。
- ・生徒会のイメージが硬い。
- ・募金の少なさ。
- ・他学年との交流が少ない。
- ・先生の残業が多い。
- ・校則の違い。

■14:00～15:30 熟議を深めよう！

テーマ（２）出し合った課題を解決するために中学生に（自分に）できることは何かを話し合おう！

テーマ（３）課題を解決するためのアクションプランを決めよう！

～課題解決のために各グループごとで何ができるか話し合いを深めました。そして、実現可能なアクションプラン作成へと話し合いを進めていきました。～

■15:30 アクションプランの発表

1G 名古屋市の中学校の校則を見直したい！

【きっかけ】

ジェンダー平等などを学校で教えられているのに、何故校則にしばられているか考えたいと思ったから。

【アクションプラン】

- ①各中学校でアンケートを取り、意見を集める。
- ②生徒会サミットで熟議する。→教育委員会に提言する。
- ③チュー祭でアンケートや、署名活動をする。

【利点】

- ・他校との校則の違いを知り違いを無くすことで、不満や妬みや悪口が減る。
- ・身近なテーマからジェンダー平等について考えるきっかけになる。
- ・校則は礼儀やルール、マナーを守るため、人に不快感を与えないようにするためにある。しかし、高校生、社会人になるとそれらを自分で判断しなければならない。中学生はその準備期間とも言える。そのため、髪型などを自由にすることで自分なりに考える機会を得て考える力を身につけることができる。

2G 身近な課題を解決しよう！

【アクションプラン】

- ①コロナ禍での授業の遅れを解決する！

- ・毎時間の授業を録画して teams など配信する。休んでも同じ授業を受けられるようにする。
- ②ジェンダー平等についてもっと知ろう！
- ・学校の体育館、公民館などで地域の人にも参加してもらいジェンダー平等についてディスカッションする。
- ③東日本大震災を忘れない！
- ・陸前高田市との交流で学んだことを集会やポスターなどで広く発信して防災意識を高めたい。
- ④理科の知識を高めたい！
- ・コロナ禍で減った理科実験、理科が難しくなっていることを解決したい。NHKの動画を授業に取り入れる。実際に取り入れている学校にモニタリングする。
- 【チュー祭に向けて】
- ①ジェンダー平等や校則について、いろんな価値観を知ろう！
- ・人がたくさん集まる場所で SNS も活用しながらたくさんの意見を集める。
- ②SDGs17 の目標を発信しよう！
- ・中学生だからこそできる SDGs への行動をパネルにして掲示し、広く発信する。

3G 身近な課題を解決しよう！

【アクションプラン】

- ①カラスの被害、ゴミ問題について
 - ・ゴミ BOX を街に増やすために中学生が募金を呼び掛ける。
 - ・子ども会と地域の人たちが集まる会を合同にして、地域のゴミをなくすための会合を開く。中学生がそれを繋ぐ役割をする。
- ②スクールランチによる食品ロス問題について
 - ・食べ残しを減らすキャンペーンを各学校で実施する。
 - ・スクールランチにするかお弁当にするか各自決定できるようにする。
- ③SNS への誹謗中傷問題について
 - ・いじめのダイヤルや相談アプリがあるが、活用しきれていない。理由は相談した情報がどう処理されるか分からないので不安。→仕組みをみんなに知ってもらい、安心して使えるようにする。そのようにできるよう、中学生が教育委員会と協力して啓発をする。
 - ・呼びかけや講演などで事の重大さを呼び掛ける。
- ④校則について
 - ・最近だと LGBTQ が増えていたり、生活が苦しいという子もいたりする。名古屋は外国籍の子が多いし、宗教的な問題もあつたりする。そういう背景も考えながら、校則とは何だろう、中学生らしさって何だろうということに疑問を持ったり考えることが重要。次のチュー祭でアンケートをとってみたい。

4G 生徒会としてできること！

【課題を解決するためにやってみたいこと】

- ①登下校では。
 - ・個人の意識を高めていく必要がある。啓発できるものを作成し、郵便ポストに登校したり校内放送で安全登校を促したりする。
- ②地域との交流では。

- ・学校のホームページに興味を持ってもらえるようにリニューアルする。
- ・災害時のコミュニケーションが可能な状態にしておきたい。以前あった祭りや職業体験がコロナでなくなったので、他の催しをする。(吹奏楽部が老人ホームを訪れていた) 地域ぐるみの防災訓練。
- ・清掃活動や感謝の会はあるが、いつどこで行われているかわからないということも起きているので、現在行われているイベントの周知もしていく。
- ・地元ならではの有松絞を活かした活動がしたい。

③募金を増やすために。

- ・中学校でポスターコンクールを行い、生徒がポスターを描く。(意識向上)

④生徒会の硬さ払拭。

- ・朝会で思っていることをスピーチする。

⑤他学年との交流では。

- ・縦割りレクをする。

⑥LGBTQ では。

- ・アンケートをとり、今中学生はどんなことを学ぶ必要があるか、把握したうえで学習することが必要。

【アクションプラン】

～まずやってみよう～

- ①地域交流：年代を超えたレクリエーションの企画をする。
- ②校則：様々な学校(名古屋市以外も)の校則を調べてみる。
意見箱を設置する。

16:00

■ご講評：京都芸術大学客員教授 寺脇研先生

寺脇先生は、熟議で発表したアクションプラン一つひとつに意義を解説してくださいました。そして中学生の皆が「共生社会」へと向かう過程において今日の熟議は非常に意味のある議論であったとご講評いただきました。寺脇先生はいつも中学生にエールを送ってくださいます。今回も参加の中学生にとって勇気をいただいたご講評であったと思います。

■お礼の言葉：教育支援協会東海 代表 本多功

私の願っていることは、生徒会サミットという文化を途切れなく続けていって欲しい。そして今日の熟議ででた意見は個々の意見にとどまらず、世の中にどのように発信したら良いかを今日参加した皆で考えてまた2024年の第2回「チュー祭」につなげていってくれたら嬉しく思います。と全体に向けて終わりの言葉を述べました。



16:30 終了

■参加者の感想から

- 私は今回初めて生徒会サミットに参加させていただきました。話し合いをするとき「どんな意見も否定せず肯定する」というルールがとても良く、意見を伝えやすかったです。実行するとなると大変かもしれない。でも、この策なら解決するかもしれないと思えるものもありました。私はどうしても「もしも」のことを考えてしまい、一步踏み込んだことを考えるのが苦手ですが、他のグループやファシリテーターの方の話聞き、いろんな考えを知れました。とても貴重な経験で有意義な時間を過ごせたと思います。ぜひまた参加したいです。
- サミットに参加することが身近な課題について考えるきっかけになったので良かったです。また、他校での課題を知ることができたのも良かったです。他の学校の方と意見交換をすることで新たな課題を見つけることができました。改めて身近な課題から目を背けずに解決に向かって行動することの大切さを感じました。同じ課題でも学校によって作成したアクションプランが異なっていたりととても面白かったです。自分たちの学校の強みを活かしたアクションプランを作成することが大切だと思いました。サミットに参加することで地域の未来について考える良い機会になりました。
- 私は当日は参加することができませんでしたが、事前学習では自分の学校や地域の問題を考えより良い環境にしていくためにはどうすれば良いのかなど、改善点も考えることができました。また、私以外の生徒会メンバーから話を聞いて当日の活動内容を知ることができたので良かったです。
- 他の学校の方々の意見や考えを共有するという良い機会になりました。これから議論した内容を実践し、名古屋をより良い街にしていきます。有松中の考えは地域がメインでしたが、他校の方々から別の観点を聞き、総合的に課題を解決したいという気持ちになりました。ファシリテーターのみなさん、運営して下さったみなさんのおかげで自分の考えを広げることができました。改めて自分の知見を深めることができ本当に良かったです。
- 僕は生徒会サミットに参加して自分の周りにある課題に対して解決策を見つけ出すことの難しさを学びました。自分の身近なことのはずなのに、なぜか浮かんでこない。しかし、他の中学校の人の意見を聞くと今まで考えつかなかったアイデアを得ることができて話し合いというのは重要でとても価値のあるものだと思います。このサミットでは、ファシリテーターの方に助けられました。僕たちが出した意見をうまくまとめて下さったり、僕もファシリテーターの方々のようになりたいと思いました。



■名古屋市生徒会サミット 2022 を終えて

2013年より毎年開催してきた名古屋市生徒会サミットですが、今回は新型コロナウイルス感染拡大への配慮からオンラインでの熟議となりました。このような状況下でも、6校の生徒会ご担当の先生方からご協力を賜り、15名の中学生が身近な課題についてさまざまな意見を交換しました。

2019年までのサミットでは、7時間に及ぶ熟議を展開してきました。それに比べてオンラインでの熟議は熱量が伝わりにくいというデメリットがあります。また、長時間のオンラインは疲れることもあります。そのようなことから時間を短縮して行いました。「コロナ禍でなければ・・・」という思いはありましたが、参加者の中学生のみなさん、実行委員のファシリテーターも頑張ってくれて、名古屋市生徒会サミット 2022 を何とか開催することができました。

今回発表された意見は、2024年に開催を予定している第2回中学生の祭典「チュー祭」に反映させていただきます。

この事業は、利他の精神を持った未来のリーダーを育成すべく今後も継続してまいります。

どうぞ今後とも当事業にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

名古屋市生徒会サミット

担当 NPO 法人教育支援協会東海 西尾真由美

問い合わせ先

NPO 法人 教育支援協会東海 代表理事 本多 功
名古屋市西区南川町 297 番地
TEL 052-505-4900 / FAX 052-506-9078

NPO 法人 教育支援協会東海 専務理事 西尾 真由美
E-mail : m.nishio@kyoikushien-tokai.org
mobile : 080-5130-2403 (問い合わせ電話番号)
URL : <http://kyoikushien-tokai.org>